

教育課程特例校の指定について

広島大学附属三原小学校

広島大学附属三原中学校

〈教育課程特例校とは〉

学校又は当該校が設置されている地域の実態に照らし、より効果的な教育を実施するため、当該学校又は当該地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要が認められている場合に、教育課程特例校として指定し、学習指導要領等の教育課程の基準によらない特別の編成・実施を可能とするものです。

〈光輝(かがやき)とは〉

本校では、これまでの6年間、文部科学省指定研究として、特別の教科である道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を統合した「光輝(かがやき)」を中心とした幼小中一貫教育カリキュラムの開発に取り組み、特に、3つの次元(躍動する感性、レジリエンス、横断的な知識)に焦点を当て、その基礎となる資質・能力を育成してきました。

本年度は、これまで行ってきた「光輝(かがやき)」を継続させながら、「レジリエンス」に重点を置いた研究を行います。特に、人とのかかわりを意識した活動を設定し、「受容と共感」を促す手立てに着目しながら教育活動を行うこととします。

特に、「光輝(かがやき)」では、道徳、特別活動を組み込んだ、「倫理的なことや行為の在り方」について実践を通して考えたり、「自治」を体験的に学んだりすることのできる単元を実施します。

例えば、子供が中心となって運動会を運営する中で、道徳の「自主、自律」・「向上心、個性の伸長」・「よりよく生きる喜び」・「思いやり、感謝」・「友情、信頼」・「相互理解、寛容」・「公德心」・「公正、公平」・「勤労」・「よりよい学校生活、集団生活の充実」といった内容項目について、議論をします。それぞれの内容項目をつなぎながら、実践に移し生きた学びにしていきます。

また、特別活動における三つの視点「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」をすべて「光輝(かがやき)」の中で育むことができます。例えば、小学校1・5年生において「異学年交流活動」を実施しています。1年生と5年生で特定のペアをつくり、お互いが遊びやイベントを企画・参加し合います。このような異学年交流の場を通して、例えば1年生において、5年生の子供に向けて手紙を書く活動を設定することで、国語科の学びがより生きた学びに変わることが期待できます。

さらに、中学1年生(7年生)においては、「光輝(かがやき)グループ探究学習」を実施します。グループで住んでいる地域の諸課題についてテーマを設定し、文献を読んだり、フィールドワークを行ったりしながら、これからの未来に向けた提案を行います。このような探究的な学びをグループで行う中で、「人間関係形成」や「社会参画」などの特別活動の視点にも関わった学びが実現します。